

## 陵水協力講義「リーダーシップ論」・補足資料其の二

<これから社会に出て行く皆さんに>

- ・ 「何をするか」を考える前に、「どんな人間になりたいか」を考えて下さい。
- ・ 就職とは、会社を選ぶのではない。「これからの生き方」を選択するのです。

- これからの生き方 -

それは、「未来の自分の在り方」に目を凝らすということでもあります。

- どんな人間になりたいですか？

\* 返ってくる答えは、たった一つです。

「多くの人に喜ばれ、必要とされる人間になりたい」・人間の究極的願望です

- 人間は、誰かに喜ばれるために生まれて来るのです。

あらゆる人間の使命とも言えます。

そして人間は、誰かに喜ばれている自分を発見し、喜び、成長する生き物です。

もっと喜ばれるためにこうしたい、もっとこうしてあげたい。

その思いが、人を成長させるのです。

仕事とは、そんな人間の使命・役割をより広く、より深く果たすために有るのです。

<人間の誇りの源泉>

- ・ 「事を論ずる時は、自分の能力・立場を考えて自分で実行できる事を言いなさい。」

それは、誇りある人間であれ、という原点です。

- 人の事を言う前に、まず自分は、どんな人間になるのか？という一点を考えなさい。

それを志とし、では自分は何をするのかを次に考えなさい。

・・・それが人間の誇りの源泉です。

「まず自分に何が出来るのか？」

- 誰かをあげつらい批判することを厳しく戒め

「どんな問題であっても君が出来ることを考えれば良い。人のことは、いい。」

「今、私にできること」

- ・ ...その思いを胸に行動して生きることこそが、崇高な生き方である。

\* 人間は、多くが、「誰かに喜ばれたい」その思いを抱いて生きます。

しかし、いつしかその思いは薄れ、時に上司からの指示を、毎日の中

でこなすことが、仕事であると錯覚するようです。

<人間の才覚には、小才、中才、大才の3段階が、あるようです。>

「小才とは」

- ・ 日々の仕事の中で問題点を発見できる人です。日々の仕事の中で、もっと喜んで頂ける為に何が出来るか？その“意識”を持って仕事をしている人です。  
「問題発見能力」を持っている人です。  
- 簡単なことのように思えるが、人間は「今の環境」に慣れてしまいます。意識を起動しなければ、課題に気づくことすら難しい。  
何かないか？ひとつでも毎日見つけようと語り合う気風がないと、この小才の芽すら潰してしまうようです。

「中才とは」

- ・ 発見した問題、課題を発信できる人です。  
言わば、「問題発信能力」と言って良いでしょう。  
- 問題の発信には、“勇気”が、必要です。  
言われなくても良いことは、敢えて言いたくない。波風のない安穩さが、大切と考える人も多いのです。  
発信をしない集団には、恐ろしい病が、必ず発病します。  
“問題点不感症”という病です。  
破綻に至るまで現場の課題に全く気づかないのです。  
\* 人間は、アウトプットを前提としないとインプット能力が、劣化していくようです。  
つまり、発信しない人間は、発見もしなくなるのです。

「大才とは」

- ・ 発見し発信した問題・課題を我が事として、解決しようとする人です。  
これは、「問題解決能力」といえます。  
- 解決能力を身につけるには、“覚悟”が必要です。  
あらゆることを我が事と捉える。  
すると当然誰よりも仕事量も増えるでしょうし、時間も必要になります。  
ですから、覚悟がなければ、大才には、なりえないのです。  
\* 人財とは、より広く、あらゆる事に対し大才であろうとする人間の事なのだと思います。

『人間とは、あらゆる過去からの記憶を未来へと伝達していく受容体であると言えます。そこには、一つの大きな責任があると思うのです。  
それは、未来へと伝達する記憶を、私達の世代・時代でよりよいものにして渡していく、という責任です。  
そのために、今、私たちが、己の地、己の身にしてでき得ること。  
その一点の大切さを強く思います。』